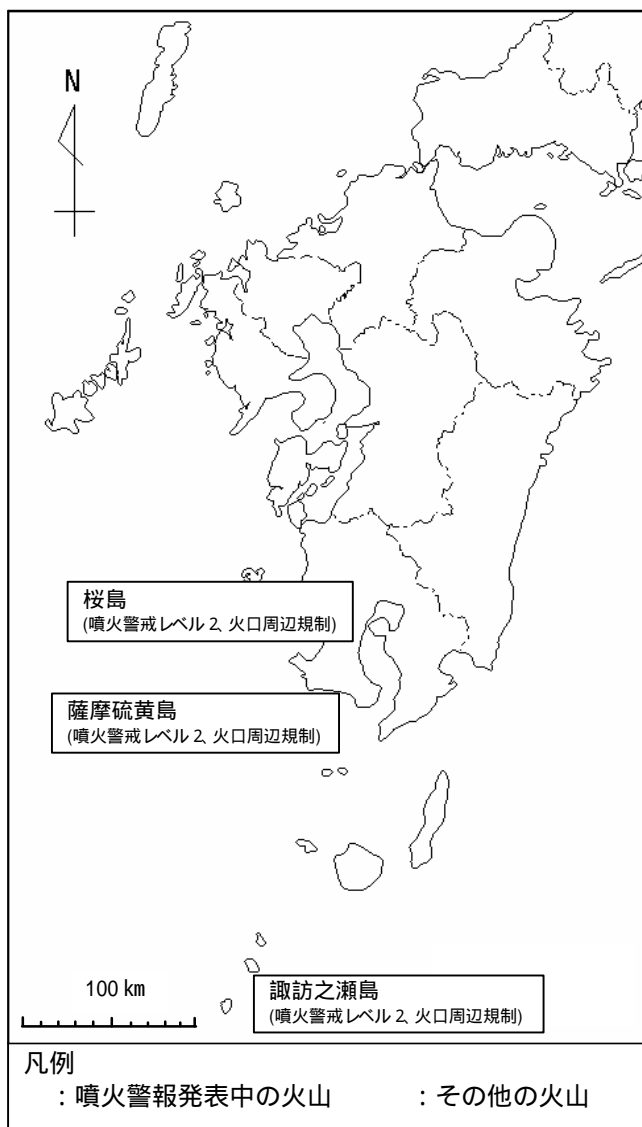


管内月間火山概況 (平成 20 年 3 月)

福岡管区気象台
火山監視・情報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況

- 火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）：桜島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）：九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山（新燃岳）
霧島山（御鉢）口永良部島
噴火予報（平常）：阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群
米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島



噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山に導入されています。

この管内月間火山概況は気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区気象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)でも閲覧することができます。次回の管内月間火山概況(平成 20 年 4 月分)は平成 20 年 5 月 9 日に発表予定です。

この資料は気象庁のほか、東京大学、京都大学、九州大学、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所、大分県、阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ(標高)」、「数値地図 10mメッシュ(火山標高)」を使用しています(承認番号:平 17 総使、第 503 号)。

各火山の活動状況及び予報警報事項

主な火山の活動及び予報警報事項の状況は以下のとおりで、予報警報事項に変更はありません。

九重山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

阿蘇山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

孤立型微動の発生回数の多い状態が続いていますが、中岳第一火口の状態に特段の変化は認められず、噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常) が続いています。

火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。ただし、火口内では噴気や火山ガスの噴出が見られることから、火口内及びその付近では火山灰の噴出等に警戒が必要です。また、火口周辺では引き続き火山ガスに対する注意が必要です。

雲仙岳 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

霧島山 (新燃岳) [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

霧島山 (御鉢) [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

桜島 [火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)]

南岳山頂火口ではごく小規模な噴火が発生しましたが、昭和火口では噴火は観測されませんでした。

今後、南岳山頂火口及び昭和火口の周辺に噴石を飛散させる程度の小規模な噴火が発生すると予想されますので、これらの火口周辺では噴火に伴い弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石 (火山れき) に注意が必要です。降雨時には泥流や土石流に注意が必要です。

なお、長期的にみると昭和火口の噴火活動は 2006 年 6 月の噴火以降、次第に活発化している傾向がみられます。今後の火山活動の推移に注意する必要があります。

薩摩硫黄島 [火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)]

噴煙活動はやや活発で、地震回数はやや多い状態が続いています。硫黄岳火口周辺では噴火に対する警戒が必要です。

口永良部島 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

諏訪之瀬島 [火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)]

22 日に御岳火口で爆発的噴火が発生しました。

今後も、御岳 (おたけ) 火口から半径約 1 km の範囲に噴石を飛散させる程度の小規模な噴火が発生すると予想されますので、これらの地域では噴火に対する警戒が必要です。

上記以外の火山の活動状況に変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められず、予報警報事項に変更はありません。